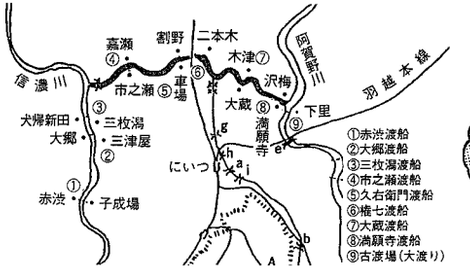
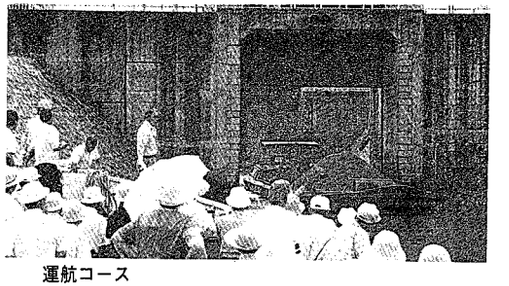
市民大学で学んでいます

③ふる里ウォッチングⅡ

小阿賀野川舟運





運航コース
出発地点（荻島）→満願寺閘門→酒屋→帰船地点（荻島）

ふる里の歴史と文化を学ぶこのセミナーは人気が高く、五十名の受講生が学んでいます。市域を川に囲まれた新津の歴史は水と大きなかかわりがあります。かつての産業や生活を支えた川と船の歴史を学ぼうと八月二十日、船舶共同組合の協力を得て小阿賀野川を往復する乗船検証を試みました。

小阿賀野川は阿賀野川と信濃川の通水をはかるため、幕命により新発田藩が元文三年（一八三七年）から五年にかけて改修開削したものです。

昭和六年には満願寺に閘門が完成し、新潟の道路工事や建設用に阿賀野川の砂利を満載した砂利船の往来が盛んになりました。船の中には簡単な炊事用具があり、三人位が寝泊まりして運搬作業をしていたことも珍しくありませんでした。昭和三十年頃の最盛期には能代川下流の荻島付近を中心に約八十隻の砂利船が係留されていました。現在の閘門は昭和四十七年に改築されたものです。

栗原冨義組合長から一通りの説明を受け、乗船した受講生は人力の改修工事で苦労した頃の昔の姿を想像したり、かつて砂利船が頻繁に往来していた川から見た両岸の景色を満喫していました。

市民文芸

短歌

石畳の石の一枚ずれ違ひ割れたる隙間びっしりと苔
宮野時雄（柄目木）

スーパーの出来て足る日々小間物屋豆腐屋もいつか忘られてゆく
松本光枝（中野一）

俳句

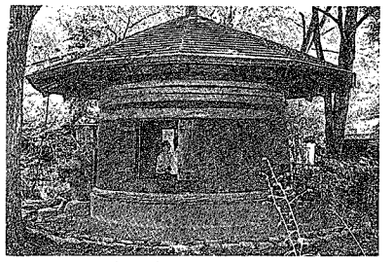
雲水の酒房へ入る酷暑かな
濱邉ぎさく（草水町一）

どくだみに星屑降りて闇育つ
小出吉二郎（緑町）

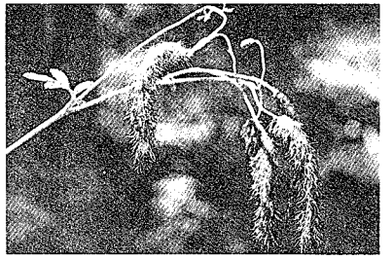
川柳

カーテンを引いて金魚よ泣きたかろ
梅沢キクエ（田家二）

花火みる人ひとみんな主役だね
佐々木ヤス（葬道町一）



酒樽（50石）・８帖の円型茶室



高山植物　カライトソウ

山野草と私

塩谷　堀　リイ

よく、私の家を訪問される方々は、「多彩な趣味をお待ちですね。」とか「優雅な趣味をお持ですね。」とか言われますが、私自身は、趣味というよりは、雑学の旅の放浪者ではないかとの思いが強いのです。

私と山野草との出合いは、東京での学園時代、平島博士（お茶の水）に伴われての、野山や海浜の植物観察の時間で、この時が最も心踊るひとときでした。

山野草に、はなやかさはありません。花も小さく、楚々とした咲き方ですが、私には、かえってのめり込ませる要因になってきました。

昭和三十一年から植栽を始めたのですが、当時、山野草など一般にはまだ見向きもされない時代であり、公務と耕作に追われる私には、山歩きを楽しむ機会もなく、苗を埼玉県の花卉園芸店から十本求め、その順応度を観察しながら定植をしてきました。

春は、みやまかたばみ、白根葵、熊谷草、片栗、雪割草などの開花によって幕があきます。この折が、最も待たれる躍動の季節です。

昭和四十二年に、乞われて名札をつけ始めたのですが、三百八十枚で時間切れとなり、その後は殖えるにまかせています。

私の恩師は、これまで、牧野博士の「植物図鑑」でした。この指導書は、今まで製本不能なまでの傷みですが、頁が飛ぶまで愛用して行きたいと思っています。七年前、山本敏夫先生から直接指導を頂くことができ、この上もない幸せであります。

山野草に囲まれた一角に、円型茶室が風情を添えています。これは、失われてゆく五十石の酒樽を素材にしたものです。

点前等を度外視し、この中での一喫の茶は、山野草観察に添える一時の憩の場であります。

また、傍らの水琴窟も、案外美しい音色を奏で、時として訪れる方々の句となり、短歌の素材となってくれています。

自主学習グループコーナー

―荻川地区少年スポーツクラブ―

昭和三十年代の後半に、子供達にスポーツの良さを味わわせ健全に育てようという呼びかけで誕生したのが「荻川地区少年スポーツクラブ」です。

今では、すっかり地区に根を広げ、小学校四年からの入会を首を長くして待っている子供も多くなりました。

本年度の人数は、次の通りです。

クラブ名	登録者	指導者
ミニバスケットボール	88	6
野球	68	7
陸上競技	22	4

指導者は、ボランティア活動で熱心に指導しています。みかねた地区の方々が後援会を作り援助をしてくれています。

○荻川地区少年スポーツクラブ後援会

地区内の全布が加入し、年会費は現在二〇〇円です。結小・市之瀬小・新津第二中の児童・生徒が対象です。

○各クラブ父母会

自主団体で、合宿、遠征、レクリエーション活動の世話など日常のクラブ運営を助けてくれています。

自分の子を団体に加入させて親もお手伝いや世話に参加する。これが、会を長続きさせる根本だと思っています。

・問い合わせ先
結六十六
林　三夫
（二四―一五七三）